

季報35

本法人の広報誌を国見の自然あふれる四季とともにお届けします



雪でマフラーを巻いたように見える「雪樺の乙女像」
国見キャンパスでは今年度初の積雪となりました。

contents

- P 1 表紙
- P 2 東北文化学園大学フォーラム
- P 3 文化学園祭2023
「革新～青春を取りもどせ～」開催
- P 4 まなびのコラム（リハビリテーション学科）
「8%の子どもが抱える読み書き障害、
早期発見の重要性とは？」
- P 4 まなびのコラム（リハビリテーション学科）
「私たちの身体には祖先と繋がる
痕跡がある！？人類学的小ネタ」
- P 5 フェンシング部
「特別国民体育大会と
全日本学生フェンシング選手権大会出場」
- P 5 剣道部
「来年度に向けて」
- P 6 専門学校NEWS
- P 7 友愛幼稚園NEWS
- P 7 久慈幼稚園NEWS
- P 7 寄附芳名一覧
- P 8 研究紹介（臨床工学科 工藤 剛実教授）

季報35号では、東北文化学園大学フォーラムと新型コロナウイルス感染症後、初開催となった学園祭を紹介します。「まなびのコラム」では、気づきにくい子どもの「読み書き障害」と私たちの身体にある祖先の身体的特徴について掲載。研究者紹介では、医療事故の発生防止を研究する臨床工学科の工藤教授についてご紹介します。



※本誌掲載の写真については、感染症対策のため撮影時のみマスクを外しています。
※読み書き障害を持つ方のため、一部コラムに全てルビをふっています。



去る10月8日、仙台駅前のアエル30階を会場に今年で22回目となるフォーラムを開催しました。このフォーラムは広く一般市民の方を対象として、本学の教育・研究の特色を活かし皆様と情報を共有する目的で開催しています。

今回のテーマは「健やかな未来のために～言語聴覚士・視能訓練士・眼科医が語る秘訣～」として第1部を言語聴覚学の分野から「コミュニケーションを科学する」と題し、本学の教員であり言語聴覚士の藤原加奈江教授が「自閉スペクトラム症児の心の育ち～言語聴覚士の立場から～」、同じく言語聴覚士の阿部千佳助教が「ノドの健康～声をきたえて若さを保つ～」の講演を行いました。

第2部は視覚機能学の分野から「目の健康を科学する」として本学教員で視能訓練士の小野峰子教授が「若者の目を守る～目にやさしいスマホの使い方～」、眼科の専門医である浅野浩一教授から「見逃さないで！危険を知らせる目のサイン」を講演しました。

質疑では寄せられた質問に4人の講演者がそれぞれの分野から説明を行い、聴講者の方からは「大変参考になった」「とても理解しやすい説明で良かった」「知識はもちろん体験もでき、有意義な時間となった」などの感想が寄せられました。

東北文化学園大学フォーラムは2024年も秋の開催を予定しています。皆様もぜひ一度お越しください。



言語聴覚士の藤原 加奈江教授



言語聴覚士の阿部 千佳助教



視能訓練士の小野 峰子教授



眼科専門医の浅野 浩一教授



会場の方との質疑応答の様子



加賀谷学長と関係者の集合写真



大学 文化学園祭 2023 開催 (学生課)

東北文化学園大学の秋の大イベントでもある文化学園祭を10月21日・22日に開催しました。今年のテーマは「革新～青春を取りもどせ～」です。

4年ぶりのコロナ禍以前の規模で開催ということもあり、実行委員35名で試行錯誤をしながらの開催となりました。

今年は、多くの一般の方や高校生に会場いただき、2日間で延べ1,500名程の参加者となり、コロナ禍以前の2019年度と同等の参加者数となりました。

ステージ企画では、ビンゴ大会・バンド演奏等を実施し、

大変な賑わいでした。サークルや学科の企画・展示では、視力検査の体験、成果物の展示が行われました。

また、同窓会による「コーヒー焙煎体験会」や「ライフプランの作り方講座」では、多くの同窓生が文化学園祭を盛り立てていただきました。

昨年度、コロナ禍により出店が難しかった屋台も今年は13件の出展があり、美味しくボリュームのある食事が提供されました。その他、俳優によるトークショーやアーティストによるライブ、フィナーレには恒例の打ち上げ花火を行い、滞りなく終了することができました。



コラム

まなびのコラム「8%の子どもが抱える読み書き障害、早期発見の重要性とは？」

小学生のころ、休み時間には普通に話すし、授業でも発表できたりするのに、教科書を音読する時に急にたどたどしくなる子や、漢字をなかなか覚えられない子はいませんか。もしかすると、その子たちは「発達性読み書き障害(発達性ディスレクシア)」だったかもしれません。

発達性読み書き障害は「学習障害(LD)」の中核とされ、日本では約8%の人がこの障害を持つという報告があります。30人学級だと2人はいるという計算です。この障害は知的には問題が無いのに、読み書きの習得が困難という状態になります。障害も「ある/ない」ではなく、程度の問題です。ごく軽い読み書きの困難があるという状態から、文字を覚えるのが非常に困難な状態まで程度は様々です。

見た目では分かりませんが、多くのお子



発達性読み書き障害の評価やトレーニングで使う文字カード

さんたちが見過ごされています。そのお子さんに合った練習をすれば、軽い場合には平均に追いついたり、何かしら改善してきたりもしますが、ある程度の困難さは残って、一生のお付き合いとなることも多くあります。また、小中学生だけでなく、高校生、大学生、社会人にも困難を抱えている人が一定数います。早期発見、早期介入が大きなカギを握っています。

これをお読みの皆様の中で、ひょっとして自分も？という方がいらっしゃるのではないのでしょうか。気になることがございましたら、お近くの専門機関(発達障害を診ている医療機関など)や言語聴覚士にご相談ください。現在は、代償手段の開発・研究も進んでいます。あなたの感じている困難さを減らす方法が見つかるかもしれません。

【筆者】

医療福祉学部 リハビリテーション学科
言語聴覚学専攻 助教 澁谷 文恵

【資格】言語聴覚士

【研究テーマ】

学習障害(特に発達性読み書き障害)

発達障害

日本語話者児童の英語学習(文字習得)において重要となる認知能力の検討



澁谷 文恵助教

コラム

まなびのコラム「私たちの身体には祖先と繋がる痕跡がある！？人類学的小ネタ」

私は人類学者・古生物学者として、アフリカで化石を発掘し人類・哺乳類の進化を研究しています。この度、大変光栄なことに「一般の方の生活に役立つコラム」として本コラムの原稿依頼を受けたのですが、みなさんの生活の役に立つという自信は全くありません。ですが、飲み会などの雑談で活用できるかもしれない人類学的小ネタをご紹介します。

上の前歯(上顎中切歯)の裏側をベロ(舌)の先端で触ってみてください。全体的に窪んでいます。両側の縁が盛り上がっていてシャベルのような形になっている人が多いと思います。これは「シャベル状切歯」といって、ヨーロッパ人やアフリカの人たちにはほとんど見られませんが、東アジア人やアメリカ先住民に非常に多い遺伝的特徴です。日

本人では7~9割がこの特徴を持つとされています(鈴木・酒井, 1966)。また、シャベル状切歯は弥生時代以降の日本人に多い特徴で、縄文時代人の切歯は平ら(非シャベル)が多かったことが知られています(金澤, 2011)。

次に、耳(耳介)を見て(触って)みましょう。耳の一番外側の縁を耳輪と言いますが、この耳輪の上部が内側に小さく膨らんで(小さく尖って)いる人がいます。これは「ダーウィン結節」と言って、ヒトの祖先の原始的霊長類の尖った耳が垂れて縮小した痕跡だと言われ、あの「進化論」のダーウィンが最初に記載したことに由来しています(犬塚, 2006)。

このように私達の身体にはさまざまな進化の痕跡が隠されており、解剖生理学、検死等でも活用されています。



シャベル 尖った耳(左)とダーウィン結節(右)

遺伝的特徴の例



辻川准教授が参加したケニアでの発掘集合写真

【筆者】

医療福祉学部 リハビリテーション学科
視覚機能学専攻 准教授 辻川 寛

【担当】解剖生理学、感覚器解剖・生理、
人体の構造と機能ほか

【研究テーマ】

自然人類学、古脊椎動物学、比較解剖学
アフリカで発掘した霊長類化石・哺乳類
化石から人類の起源と進化を探る

大学 特別国民体育大会と全日本学生フェンシング選手権大会出場（フェンシング部 監督 齋藤 有）

2023 年特別国民体育大会フェンシング競技出場

10月8日～11日、鹿児島県垂水中央運動公園体育館で「かごしま国民体育大会」が開催されました。フェンシング部からは2名の部員と、選手兼監督として私の3人がフェンシング競技の各県代表選手として出場しました。

宮城県（成年男子／選手兼監督 齋藤 有（大学職員）

結果 フルーツ 3回戦敗退／サーブル 2回戦敗退

山形県（成年男子／選手 青柳 雄大（経営法学部）

結果 フルーツ 3回戦敗退／サーブル 2回戦敗退

福島県（成年男子／選手 高木 夢生（現代社会学部）

結果 フルーツ 1回戦敗退・サーブル 2回戦敗退



かごしま国民体育大会に参加

来年はベスト 8 以上を獲得し表彰台を目指したいと思います。

全日本学生フェンシング選手権大会（インカレ）出場

11月8日～10日、静岡県沼津市総合体育館にて全日本学生フェンシング選手権大会へ出場しました。

個人戦（女子フルーツ・サーブル）は山谷 遥（現代社会学部）が出場し、女子フルーツ 51 位・女子サーブル 29 位の結果でした。また、団体戦についても男子フルーツ 16 位・女子フルーツ 14 位となりました。

来年はインカレ出場選手をさらに多く輩出したいと考えております。今後とも応援よろしくお願いたします。



全日本学生フェンシング選手権大会での男子団体戦

大学 来年度に向けて（剣道部 監督 菅野 良信）

3年目を迎え昨年度より大会で良い成績を収めようと練習に励んできましたが、試合前に選手が体調を崩したりして万全の状態での臨むことが出来ないこともあり、目標としていたことが達成できませんでした。

そのような中、最後の大会（第2回東北学生剣道新人大会）で団体第3位を獲得出来ました。1、2年生の部員は自信がついたのではと感じています。今までの大会では入賞できなかったのが、なんとか面目を保てました。

他大学からのマークも厳しくなっていますので、これからの練習では技術だけでなく、精神面、体調管理等をより気を付けて励みます。

また、来年度、新たに2名の部員を迎えますが、今年の反省点から早めに新入部員と練習をしていこうとも思っているのと、学生募集も含め県内外の優秀な高校と練習会を増やすなど、新たな目標に向け臨んでまいります。

来年は1年生から4年生まで部員が揃います。新たなスタートとして本学の伝統を作っていこうと部員とも話しております。これからご支援をよろしくお願致します。



専門

インテリア科 2年有志、第29回みやぎ建築未来賞2023「大賞」を受賞！（インテリア科）

第29回みやぎ建築未来賞2023のプレゼンテーションが先日行われ、インテリア科2年有志の出展した作品が見事専門学校部の部において「大賞」を受賞しました！また建築士事務所協会の会員様にて投票される「Web賞」とW受賞となりました。大賞は3年連続となります。

夏休み前から計画的に制作を進め、模型制作に時間を多く費やし完成度を高めることを目指しました。当日のプレゼンテーションにもかなり力を入れ、何度も原稿を直したりとチーム一丸となって取り組みました。今年のテーマは



「リノベーション」。今回計画地として目に付けたのが、老朽が目立ち現地での建て替えが発表された「仙台市中央卸売市場」でした。新しくなる市場部分と分けて、既存の配送センターをリノベーションし、新たな「食の図書館」として人々が集まる空間として生まれ代わらせる計画です。

今後50年はこの場所から東北の食文化が広がる、そんな気持ちで制作しました。また、表彰式の様子やプレゼンテーションの様子、模型作品など本校HP内YouTubeにて公開しておりますので、是非ご覧ください。



専門

学園祭コンサート“SYAFUKU LIVE～学園祭を音楽で盛り上げよう！”を開催！（社会福祉科）

社会福祉科では、10月21日に学園祭コンサート“SYAFUKU LIVE～学園祭を音楽で盛り上げよう！”を開催しました。コンサートは、Hump Backの「拝啓、少年よ」のカバーを2年生によるパワフルな演奏でスタートしました。コンサートは2部構成で、第1部ではVaundyの「怪獣の花唄」、マカロニえんぴつの「ヤングアダルト」など、全6曲を演奏しました。

第2部では、Mrs. Green Appleの「点描の唄」、YOASOBIの「アンコール」、RADWIMPSの「Grand

Escape」など、全6曲を演奏しました。また1年生は、あいみよんの「マリーゴールド」やマカロニえんぴつの「恋人ごっこ」を演奏し、キャラクター・コスチュームでの演奏は、会場を大いに盛り上げてくれました。

最後の楽曲は、2年生によるbacknumberの「水平線」の演奏でフィナーレを迎えました。その演奏は、学園祭の最後を飾るに相応しい素敵な演奏で、感動的なものとなりました。



幼稚園

民族芸能に触れて～和太鼓の鑑賞会～（幼稚園型認定こども園友愛幼稚園）

12月6日に保護者会主催の民族歌舞団ほうねん座による、和太鼓の鑑賞会が行われました。

獅子舞の演舞が始まると子ども達は、“おめでとうございます！”の言葉にあわせた獅子舞の動きに目がくぎ付けになり、歯をカチカチと鳴らしながら近づいてくる獅子舞に、喜んで頭を突き出す子やびっくりして泣き出してしまふ子等、様々な反応を見せていました。続いて和太鼓の演舞が始まったとたん、迫力ある太鼓の音が、床を伝って

全身に響くのを感じながら、目を輝かせ、最後まで聞き入っていました。鑑賞会後に年長児の和太鼓体験があり、バチの握り方、太鼓のリズムの打ち方を教えていただき、最後は全員で和太鼓を演奏する等、楽しく充実した時間を過ごすことが出来ました。

子ども達の活き活きとした様子に、これからも様々な伝統文化に親しみ、感動体験を通して豊かな心を育てていきたいと思ひます。



幼稚園

空飛ぶ風船に願いを込めて（幼保連携型認定こども園久慈幼稚園）

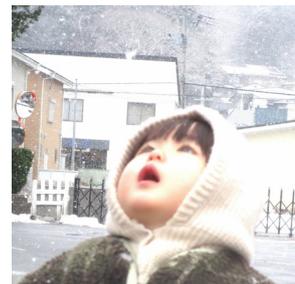
2学期の大きな行事を終えた子ども達は達成感を得て、充実した毎日を過ごしています。

クリスマスイブが近づいたある日、遠くに住む人たちにも良いことがあるようにと、風船を飛ばすことになりました。メッセージカードを書きながら、「みんながしあわせになれるといいね。」などの声が聞かれ、子ども達なりにさまざまな人のしあわせを願っているようにも見えました。

雪がしんと降る中、0歳児から5歳児までの全員が

園庭に集まりました。「私たちが知らないところで苦しんでいる人、悲しんでいる人がたくさんいます。」の声を合図に、それぞれが持っている色とりどりの風船を手から離しました。みんながもっと思いやりの気持ちをもち楽しく過ごせるように願いながら、心をひとつにして空高く飛ぶ風船を見守っていました。

久慈幼稚園の子ども達の思いが、誰かの心に届きますように。そして、世界中の人々がたくさんの笑顔で溢れますように・・・。



報告

2022年度 寄附芳名一覧

2022年度に学校法人東北文化学園大学に寄附をいただいた企業・個人の方のご芳名を本学WEBに掲載させていただいております。

学校法人東北文化学園大学は、文部科学省より「税額控除対象法人※」および「特定公益増進法人」の認可を受けており、本法人へのご寄付は個人によるご寄付の場合、所得税の「税額控除」または「所得控除」のいずれかを選択いただけます。※2022年6月20日以降にご寄付いただいた方が対象となります。



東北文化学園大学
寄附金ページ



私は、人間工学の知識や技術を活用して、ヒューマンエラーによる医療事故の発生を防止できるかを研究しています。人間工学におけるヒューマン・マシン・システムという考え方をを用いて、医療に使用される機械と操作者である人間、そして機械が使用される環境、それぞれの特性を組み合わせることで、より安全な方法について研究をしています。具体的な研究対象としては、手術室で心臓の手術中に使用される人工心肺装置と操作者である臨床工学技士との関係を研究しています。

心臓の手術を行う際に、心臓が拍動している状態では手術が行えない場合があります。そのため心臓の手術では、全身へ血液を送り出す働きに加えて、肺でのガス交換の働きを代行する人工心肺装置が用いられ、心臓の拍動を停止

して手術が行われます。

心臓の手術において、人工心肺装置は生命を維持するために必要不可欠な装置であり、国家資格取得者である臨床工学技士が医師の指示の下で操作を行います。

心臓の手術中に、ヒューマンエラーにより人工心肺装置が停止すると、全身へ血液を送り出す働きやガス交換の働きが失われ、生命に影響を及ぼすことになります。

どうすれば人工心肺装置を操作する臨床工学技士のヒューマンエラーを防止することができるのかという課題に対して、人工心肺装置へ多重の安全装置を搭載することや、様々な評価指標を用いて臨床工学技士の心理的負担を計測することで、ヒューマンエラーによる医療事故の発生を防止することを目指しています。



臨床工学技士が操作する人工心肺装置



心臓手術では欠かせない医療機器です



工藤 剛実教授

〔筆者〕

工学科 臨床工学科

教授 工藤 剛実

〔資格〕臨床工学技士

〔専門分野〕

生体機能代行装置学（体外循環、人工呼吸療法）

〔研究テーマ〕

医療機関における医療機器の安全対策

ご寄附のお願い

学校法人東北文化学園大学は、2028年の創立50周年に向け、「輝ける者を育む」を建学の精神として、地域に貢献する人材を育成しています。

これまで、この建学の精神を具現化するため、東北文化学園大学、東北文化学園専門学校、幼保連携型認定こども園久慈幼稚園及び友愛幼稚園では、学修環境・課外活動の施設整備の充実、学生生活への支援など、さまざまな事業に取り組んで参りました。特に、昨今の経済状況による家計収入減少により奨学金に頼らざるを得ない世帯も多く、さらに支援体制を充実していく必要があると考えております。

つきましては、皆様のご支援とご協力を賜りますよう、何卒お願い申し上げます。

寄附金 WEB



本誌に関するご意見・ご感想をお待ちしております。
また、記事掲載のご要望等あればご連絡ください。

■連絡先

学校法人東北文化学園大学 総務部総務課
〒981-8550 宮城県仙台市青葉区国見 6丁目45-1
TEL 022-233-3330（代表）FAX 022-233-9875
メール pr@office.tbgu.ac.jp